

特定非営利活動法人 れんぎ  
日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-13 1階

Tel. 03-5206-5260 Fax. 03-5206-5261

E-mail: yunnan@jyfa.org

URL: <http://www.jyfa.org/>

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路289号集大広場2011室

Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 ㈱日経印刷 ㈱技術評論社



Japan Yunnan  
Friendship Association

# 彩雲の南

第30号

発行日 2009年(平成21年)8月10日

会報



》后山は、富士山の8合目ほどの高所である。そんな所にも人が生活し、学校があって、約半数の子は寄宿生活をして学んでいる。子ども達は、透き通った輝く瞳で、我々遠い異国からの訪問者を歓迎してくれた。わずか数時間の交流であったが、はるかな道のりを乗り越えてきて初めて味わえる「天にも昇る」至福の一時であった。帰路、子ども達が新校舎で学んでいる様子を想像しながら、また来るからねと心の中つぶやいた。(本文2頁)《

教育は

地球社会への先行投資！

この子ども達が

50年、60年先の世界を創る。

No. 30

- ・第20校目 麗江・后山良洋小学校新校舎竣工《報告》…2頁
- ・雨が演出した予期せぬ出会い《雲南旅日記》…3頁
- ・昆明女子中学校春蕾クラス「25の小さな夢基金」第1期生卒業…4頁
- ・定時総会《報告》/21校目支援校決定！昆明老村小学校  
/文山州砚山県の小学校調査報告(抜粋)…5頁
- ・協会ニュース/イベント情報 ほか…6頁

写真：后山への山道をゆっくり進む四輪駆動車

# 20校達成 /50 リーゼン ホウシヤン 麗江・后山良洋小学校新校舎竣工

報告：近藤 鋭一 (会員)



**后**山集落は、標高3,200メートルの高所に、忽然と現れた。第一印象は、のどかで懐かしい故郷に帰ったかのようにあった。村民の生活と自然とが一体になった美しさは、ここに暮らす納西族の人達の純粋さそのもののように感じた。数時間の後に引き返すのではなく、長期滞在してここに馴染んでみたい気もした。

后山小学校は、緩やかな稜線に囲まれるようにして盆地状の平地にあった。新しい白亜の校舎と古い建物が校庭を囲み、校門の前には、バスケットゴールとコンクリートで地固めた広場があり、納西族の子ども達や校長、教員、村民の皆さんが門の前で出迎えてくれた。

**真**新しい校舎(2階建て6教室)が上がって来た。窓からの眺めがすばらしい。高所ではあっても緯度が赤道に近いせいか、緑も多く標高を感じない。一通り校舎を巡ってから、向かい側の古い校舎で授業を受けている子ども達の様子も覗いてみた。狭くて薄暗い中に、珍客を好奇の目で見る子ども達が居並んでいる。子ども達が新校舎で学習するのは、夏休み後の新学期からだそうだ。ここで勉強するのもこれが最後かもしれない。

**開**校式のセレモニーが始まった。我々訪問者のほとんどは、新校舎を背にしてテーブルについた。校庭には、100人弱の児童が整列した。全員が納西族だそうである。みんな少し緊張した表情で我々の方を注目している。最初に、児童代表の女児がマイクの所に進み出て、堂々とした口調で挨拶をした。それを、雲南支部の林さんが通訳してくれた。そのあと、校長、来賓の挨拶が続き、協会の理事長の挨拶へと流れた。そして、協会代表の名目で、私の挨拶の番になった。一応原稿を用意していたので、それに従って、今日のこの時の喜びと学校建設に協力した思いについて述べた。

**私**が、麗江地区に1校をと思い立ったのは、日本でも納西族友好協会を率い、麗江地区の教育委員会顧問まで務めて納西族の人々のために尽力された故伊東良洋氏の急逝がきっかけである。氏は、本協会の会員でもあったが、私と同じく愛知県在住のため、直接知る人はいなかったと思う。私は氏の葬儀に際し、一つの志を立てた。そして、この日それが実現したのである。ここに至るまで、雲南支部スタッフや協会理事長、東京本部スタッフの方々にどれほどご苦労頂いたか、私の乏しい想像力をはるかに越えていると思う。心から感謝!

セレモニーは、新しい校名が入った校札の除幕で締めくくられた。「中日友好后山良洋小学校」の文字がくっきりと目に飛び込んできた。折しも、空からパラパラと小雨が…。



1) 帰る時が来た。子ども達は、再び少しはにかんだ表情になり、門の所に集まり見送ってくれた。我々も手を振って別れを惜しんだ。《

**校**庭では、教員や村の人達による納西族の踊りが披露された。そして、新校舎の教室では、地元産の大根やジャガイモ、トウモロコシ、鶏肉などの料理が供された。教員の手作りだそうで、お腹いっぱいおいしく頂戴した。レストランとは違った家庭的で和やかな雰囲気の中、時間はあっという間に過ぎてゆく。到着が遅れたことで子ども達の家庭を訪問するという当初の計画は実施できなくなり、自由に子ども達と交流することになった。

同行の佐々木氏が、電子手帳を手に子ども達にうまく溶け込んでいらっしやるのに触発されて、私も子ども達に日本語を教えることで、楽しい交流の一時を過ごした。「あたま」とか「あし」とか、体の部位をゆっくり発音すると、元氣

老朽化した古い校舎では子ども達が授業を受けていた。新校舎での授業は新学期までおあずけだ。



子ども達のお腹を満たす。この地では、それも学校の大切な仕事だ。



- 【註】
- ・納西語：納西(ナシ)族の言語
- ・天麻：植物オニヤガラを原料とする漢方薬
- ・后山良洋小学校：「良洋」の二文字は故伊東良洋氏にちなむ



あの緊張感はどこへやら、子ども達は話さなく好奇心にあふれた素のままの彼らになっただけだ!



完成し落慶の横断幕で飾られた后山良洋小学校の新校舎。新学期から子ども達はこの教室で学ぶ。

よく沢山の声になって返ってきた。彼らは納西語で教えてくれるのだが、こちらはさっぱり返せない。発音さえうまく聞き取れないありさまだ。申し訳ないことに、今納西語は一つも覚えていない。この情けない私には、雲南特産の「天麻」が必要みたいだ。それにしても、あの初めのうちの緊張感はどこへやら。子ども達は、いつの間にか話さなく好奇心にあふれた素のままの彼らになっていた。私も、時の経つのを忘れ、童心に戻った。まさに珠玉の一時であった。(こんどう けんいち)

変遷第12校目蘇戸小学校・第20校目后山小学校開校式訪問記

報告：平田 栄一(会員)

協会が支援する第12、20校目の開校式と昆明女子中学校春蕾生徒の卒業式に参加するため、6月27日(土)から7月4日(土)にかけて、再び雲南を訪れた。旅の初日、広州から昆明に至る空は果てしなく厚い雲に覆われていたが、雨期に入った雲南の旅は予期せぬ出会いも演出してくれた。



●6月28日(日)麗江古城の雨宿り

最初の訪問地、麗江市へ移動。昼過ぎ、麗江空港に到着し、昼食後は各自自由行動。1年ぶりの古城區見学を楽しんだ。古城區の南側は、現地の人々が日々の生活を営む、観光客もまばらな区域である。観光地化された奇麗な路地の北側と違い、ところどころはげ落ちた土壁に挟まれた古くさい街並が続いている。「迷路」の形容がぴったりな路地裏を北へ向かってジグザグに歩いていると、突然の雨。お寺の軒先を借りて、暫しの雨宿り。前方から観光客とおぼしき女性連れが片手をかざして小走りに駆け込んできて、軒下で空を見上げてはっと一息ついた。大きな竹籠を背負った小母さんも飛び込んで来て、恨めしそうに空を見上げた。強くなった雨脚の向こうに、店番の小母さんがのんびりと遅めの昼食を頬張っていた。

●6月29日(月)后山小学校の開校式

后山良洋小学校の開校式へ向う。小学校は麗江古城區七河郷という行政區の中にある。古城區の中心地から50km足らずの距離だが、行程の途中から3,000mの高所へ登る。例によって、道路事情は芳しくない。

ホテルを出発して40分ほど、順調に走っていたマイクロバスがとある建物の前で停止した。しばらく様子のわからないまま、同行の諸氏と雑談を交わしていると、バスを四輪駆動車に乗り換えることになったとのこと。代替車がくるまでの時間潰しに周辺を散策。バスの前方左側に、立派な細工が施された大きな鉄製の門扉が見えたので近づいてみると、その脇に掲示板があった。ポスターが3枚貼られていた。「降雨時、土砂崩れ・崖崩れ・土石流の危険有り。通行の際は天気予報を確認せよ」と判読できた。

麗江政府関係者が2台、協会関係者が5台の四輪駆動車に分乗して、気持ちも新たに出発。間もなく、昨日着いた麗江空港の横を過ぎ、しばらく行ったところで国道から農道へ右折。左右は青々とした水田が広がる。小さな集落を抜けて山道に入ると、まださして悪路ではないのにノロノロ運転に。お葬式の車列が我々の前方を登っていた。この地の納西族は土葬の習慣があるそうで、故人は麗江空港を見下ろす山の中腹のどこかに埋葬されたようだ。頭に白い布を巻いた男衆が怪訝な顔つきで我々を見送ってくれた。合掌。



無舗装の険しい山道を四輪駆動車に分乗して目的地へ向かう。一雨降れば泥田と化し、軟弱な路肩が車の進路を谷底へ誘う。

后山良洋小学校は、眼下に麗江空港を見下ろす前山を越え、さらにまた山を越え、谷を渡った后山の山頂にあった。周囲をジャガイモ畑と小高い丘に囲まれ、ニワトリや豚が人を恐れることなく道端の餌をついばむ長閑な集落の中であって、納西族の子ども達98名と教師7名が学ぶ小さな学校だった。2008年9月20日に新校舎の建築を開始し、2009年6月29日、ようやく開校式を迎えた。予定外の出来事で学校到着が1時間ほど遅れてしまったのにもかかわらず、全校児童が校門の前で「きおつけ！」の姿勢のまま整列して待っていてくれた。

子ども達の歓迎の合唱に手を振って応えながら校門をくぐると、輝くような白いタイル貼りの真新しい2階建ての校舎が目飛び込んで来た。早速、新校舎の内部を見学。教室の中は白色の壁に、白タイルの床、左右に大きな窓が設けられていて、まだ使われていない教室は明



開校式典 新校舎を前にして中庭に整列し、緊張した面持ちの子ども達。老朽化した旧校舎(子ども達の背後の建物)からいよいよ待望の新校舎へ。

らさと清潔感に溢れていた。新校舎は完成して既に日が経っていたが、この日も子ども達は古い危険な校舎で授業を受けていた。開校式を待っていたからだ。

授業を参観させてもらった。古い教室の内部は薄暗く、土壁が至る所で剥がれ落ち、天井の羽目板がそっくりなくなっている教室もある。子ども達は少しずつ姿を現す新校舎を眺めながら、新しい教室での授業を一日千秋の思いで待っていたのではないだろうか、そんな思いを起させるほど新校舎は輝いて見えた。



近くの丘から見下ろす后山小学校の全景。老朽化した校舎に囲まれて新築の白亜の校舎(式典用の赤い横断幕がかかっている)がまぶしい。

開校式。協会関係者と麗江市政府関係者の紹介の後、子ども達を代表して女子生徒が「明るくて安全な校舎で勉強することができるようになり、全校生徒を代表して心からお礼を申し上げます」とまず感謝の言葉を述べ、「私たちはこんな山の中に住んでいますが、勉強

する意欲はどこの子ども達にも負けません。これからももっと勉強して、支援して下さった方々にご恩返しができるよう頑張ります。」の言葉が印象強く心に残った。続いて校長が「3,200mの後山小学校に日本雲南聯誼協会のご支援によって新しい校舎が完成しました。教師はこれまで同様に明るく元気に生徒を指導し、子ども達が社会に役立つ人間となって皆様のご恩に報えるように頑張ります」と感謝と決意の言葉で結んだ。式典の最後に、協会会員の近藤勲一氏が「この新しい校舎で思いきり勉強して下さいね」と子ども達を激励し、子ども達一人一人に鉛筆と消しゴ

ムをプレゼントして開校式は終了した。式典終了後、校庭は開校を祝う踊りの会場に変身。教員・生徒に村人、協会関係者も加わって、賑やかな踊りの輪が広がった。

(裏面【4】につづく)



腹が減っては勉強(い)き)はできぬ。食べることは教育の基本!

●6月30日(火) 春蕾の卒業典禮

小雨模様の中、昆明市内、昆明女子中学校春蕾クラスの中で、協会の就学支援事業「25の小さな夢基金」の奨学金を受けている10人の里子生徒が目出たく卒業の日を迎えた。「夢基金」第1期生である。

卒業式は2時過ぎから始まった。学校関係者の挨拶に続いて、生徒が順に壇上に登り、自己紹介とセンター試験の成績と志望大学・進路を発表。得点568点を最高に、平均500点以上を獲得し、全員がほぼ第1志望の大学へ進学できる見込みだという。北京大学、雲南大学、四川高等専修学校ばかりである。

生徒を代表して唐適宝さんが「里親の支援によって、行けなかったと思っていた高校を卒業することができ、さらに大学へ進学できるチャンスを与えていただいたことに心から感謝します。春蕾生徒は夢の実現に向かってさらに努力し、国家や社会に役立つ人間となって協会のみならずご期待とご恩に応えます」と挨拶。最後に、協会理事の北原茂実氏が「みなさんが今日の日を迎えられた理由がわかりますか」と前置きして、「それは、支援してくれた人々のお蔭もあるけれど、なによりも大切なことは「学びたい」という「強い意思」があなたの方であったからです。意思があれば夢は実現する。これからも「強い意思」を持ち続けなさい」と挨拶。生徒達には、なによりも心強い激励となったのではないだろうか。式典に参列した者全員に大きな感銘を与えた。

式典終了後、今回の開校式の旅に参加した里親とそれぞれの里子生徒が対談し共に卒業の喜びを分かち合い、別れを惜しみつつ会場を後にした。雲南省に残るもの、故郷へ帰るもの、テレビでしか見たことのない大都会へ出るもの、彼女達はそれぞれに新しい世界への一歩を踏み出そうとしている。が、卒業の喜びの反面で新たな問題も抱えている。それは、大学進学に必要な学費の問題である。奨学金を利用できるとはいえ、それだけでは足りない。大半の家庭が入学金・生活費などを工面するために借金をせざるを得ないという。どこまでも貧困の連鎖が付きまとう。そういう中で、「大学生になったら協会のボランティアとしてお手伝いをします」の一言に胸を打たれた。

●7月1日(水) 土砂崩れで道路閉鎖

昆明の西南500kmの景東県の葉戸小学校開校式へ陸路で向う。出発の前、景東県は最近の雨で土砂崩れが発生し、道路が閉鎖されているらしく、もしかすると葉戸小学校へは行けないかもしれない、との状況であったが、「行けるところまで行ってみよう」と衆議一決。意気軒別にバスに乗った。

まずは、昆明から大理白族自治州を目指して高速国道320号を西へ向い、安寧市・楚雄市を経て祥雲市で一般国道214号に乗り換える。ここからはほぼ真南に景東県を目指す。途中、昼食休憩に立ち寄ったサービス

祝卒業 & 謝支援



張玉清

唐適宝

和晴秀

李翠華

呉家碧

玉宇麗

張國花

王曉琳

陳紹仙

李女亜

現在、昆明女子中学校春蕾クラスに在籍する生徒のうち67名が当協会の就学支援事業「25の小さな夢基金」(協会に登録する里親は現在50名)の奨学金を受け日々勉強に励んでいます。そのうち「夢基金」1期生、とも言うべき10名(上場写真)がこの夏卒業し、次の新たなステップに進もうとしています。彼女達の前途を祝福すると同時に、彼女達を親身に支えてくださった会員及び支援者の方々のご厚意につしんで心より感謝申し上げます。 協会理事長 初鹿野 恵蘭

エリアで大きなモニュメントを発見。この道がかつて「鎮西公路」と呼ばれ、「茶馬古道」の一部として少数民族の文化と文化を繋いだと記されていた。後日知ったことだが、「茶馬古道」は普洱市を基点に東西南北に道があり、最も有名なのがシャングリラ・徳欽を経由してチベットと結んだルートだそうだ。

夕刻、景東県の市街に到着。県政府の方々が歓迎の夕食に招待してくれた。そろそろ宴もお開きの時間を迎える頃、やはり葉戸小学校へ至る道は閉鎖されたままとのことで、明日の訪問は涙を飲んで断念した。その夜、期せずしてKTV(カラオケ)で日中交流会の会となり、大合唱が遅くまで続いた。

●7月2日(木) 農村市の物々交換?!

景東県政府の方から「せっかく景東に来て頂いたのだから、是非見学して行ってください」とのご推奨を頂いて、小雨まじりの中、景東県の孔子廟を見学した後、後ろ髪を引かれる思いで昆明へ引き返した。景東県から1時間ほど走ったのだろうか、大理白族自治州との境界近く、安定という小さな集落で「市」と遭遇した。日を定めた定期市だそうで、1日ごとに集落を移動するのだそうだ。道路の両側に露天の店が連なり、ありとあらゆるものが売られ、人が群がっていた。果物、野菜、肉、生きた豚

にワトリ、豆腐、調理道具に蹄鉄、煙草にトランプ、衣類、靴などなど、食料品から日用品、趣味嗜好の品までなんでも揃っている。ハンタ鏡を使ってラジオの修理までやっている。ちょっとした広場では生きた豚を売り買っていた。行く末を察知したのかプー、プー、ビー、ビーと豚が泣き叫んでいた。1軒の店で売り買いの様子を眺めていると、お客が紙幣ではなく「もの」を手渡した。はたと気づいた。「物々交換」である。いまでも行われているのだった。中国が経済発展著しいとはいえ、山間僻地にまで貨幣経済が浸透していないことをはかす目撃してしまったのだった。金がなくても人間は生きていける。そう言っているように感じられた。スーパーマーケットしか知らない世代には、見るもの聞くものすべてが刺激に溢れた安定の農村市であった。

雲南の雨季は日本の梅雨と似ているが、ジメジメ感がほとんどない。時折差し込む日差しは強い。曇天でも紫外線は強いようだ。滞在中はまったく気づかなかったが、日本に帰ってから家人が顔の黒さに驚いていた。

今回のツアーは、不可抗力のハプニングによって所期の目的をすべて達成することはできなかったが、そのお蔭で雲南の人々のナマの姿を垣間みる好機を得た。それは、まさに得難い体験であり、大きな収穫であった。雨季の雲南にまた新たな魅力を感じた。帰国の日、昆明空港を飛び立ち、厚い雲を突き抜けると真っ青な空が広がっていた。(ひらた えいいち)



◀昆明女子中学校春蕾クラスの卒業式 壇上に並ぶ協会の「夢基金」奨学生達それぞれの民族の衣装をまとい、一人ひとり特製の抱負を述べた。



**定時総会**

**第9回定時総会**

6月21日(日)、八王子学園都市センターで開催。第1号から第5号まで5つの議案(報告2件、提案3件)が協会の担当理事・担当監事から順次報告・提案され、すべて滞りなく審議され承認された。

2009年度予算案については、出席の会員から「100万回の手洗いプロジェクト」に計上されている約900万円の原費の如何が買された。プロジェクトを担当する薄田栄光氏から「プロジェクトにかかる経費はすべて国際協力機構の負担であり、約900万円は同機構からの補助金(=寄付収入に計上)で賄う」との説明があった。

議案審議終了後、唐澤英安氏(協会理事)から、独自に開発した解析プログラムを使って、2007年に協会会員を対象に実施したアンケートの分析結果が報告され、会員確保や組織の拡充、活動の方向性など協会の今後の運営について、いくつか話題が提供された。

なお、会員各位に事前送付した総会資料について、協会外部から「形式的には不備はないとしても、説明責任を十分に果たしているとは実質言えない」との厳しい指摘をいただいた。「説明責任」の真意を真摯に受け止め、指摘の点については会員各位のご賛同を得られるよう今後改善を図りたい。

**【議案】**

- ① 2008年度の事業報告
- ② 2008年度会計報告
- ③ 2009年度事業計画案
- ④ 2009年度予算案
- ⑤ 定款の一部変更

**21校目支援校**



**昆明甸沙郷老村(ラオツン)小学校**

協会支援第21校目が昆明郊外の甸沙郷老村の老村小学校に決まった。着工は9月の予定だ。学校の現況は次の通り。

甸沙郷老村は甸沙郷西部にあり、郷でもっとも辺鄙、7つの自然村から成り、農業世帯393、人口1,607。漢族、イー族の生活地域で、全村人口の41%はイー族が占める。耕地面積2,625ムー(約175ha)、農民の平均年収807元、貧困人口比率は非常に大きい。村には5年制の老村小学校(生徒146人、うち45人が少数民族)と分校1校がある。

《註》自然村:自然発生的に成立した村=行政村

現老村小学校は、校舎616平米の煉瓦・木材構造。1996年の6年制小学校の普及運動のさなか急造、建築技術が低劣だった上に長年営繕修理が施されておらず、破損がひどく、学校の安全管理上大きな脅威になっている。正常な教育活動に支障をきたすほどで、学習進度も大きく遅れている。

予定の新校舎はコンクリート2階建て376平米、6教室から成る。校舎新築に伴い分校は廃止、老村小学校に統合する。既存の煉瓦・木造の校舎は修理し宿舎・食堂として再利用する。申請援助額は20万円、不足費用及び既存校舎の普請にかかる費用は現地政府がこれを負担する。

新築後の学校見取図(概念)は右の通り。▶



▲現校舎の外観と教室内部▶

》》村は幾つもの山を登り、段々畑を見下ろす山の頂上にありました。小学校の大きな鉄の門柱をくぐると、瓦屋根をのせた木造の校舎が中庭を挟んで、コの字を圍って並んでいます。一旦、風情のある校舎ですが、内部はボロボロです。屋根も波打っています。状態の悪さは素人目にも見て取れました。修繕が急がれます。(平田栄一氏「学校視察報告」より)《



**調査報告**

**文山州砚山県の小学校**

報告:林娜(雲南支部スタッフ)

2009年5月26・27両日、雲南省文山チワン族自治州砚山県の3つの小学校を視察した。そのうちの2校について報告する。

**《砚山県の現況》**

文山州砚山県は雲南省の東南部、文山州の中部に位置し、東は広南県、西隣県、南は文山県、北は丘北県と隣り合わせ、西は紅河ハニ族イ族自治州開遠市と蒙自県に接する。砚山県はチワン、ミャオ、イ、回など11の民族が雑居する農業県で、総面積3,827平方キロ。山岳地域と半山岳地域は全県総面積の85%を占める。



砚山村のどかな田園風景

中国とベトナムの国境に位置し、人口は少数民族が多い。学校教育・職業訓練の遅れが目立ち、労働生産性が低く、県の社会・経済的な発展は緩慢である。域内では衣食等の生活苦に直面する住民が多く、国の重要救護の対象県になっている。

県政府は教育を重視、教育事業を優先発展事業に据え、1994年以降約2億円の資金を投入して学校の施設・設備を補強、6年義務教育、9年制義務教育を実施してきたが、依然として約40%の学校は施設・設備の不足に悩む。多くの学校が、1クラス生徒60人以上、なかには生徒100人が40平米の校舎で寄宿生活する学校もある。

今回訪れたのは江那鎮から車で15分ほど離れた地区の小学校2校、30分離れた小学校1校(いずれも県庁に比較的近い)だが、砚山県の教育発展事業は、まず辺鄙で貧しい山岳地域の学校から資金を投入するとの方針のもと進行しており、そのため県中央に近い学校ほど校舎修繕など必要な教育条件の整備が先延ばされているのが現状である。

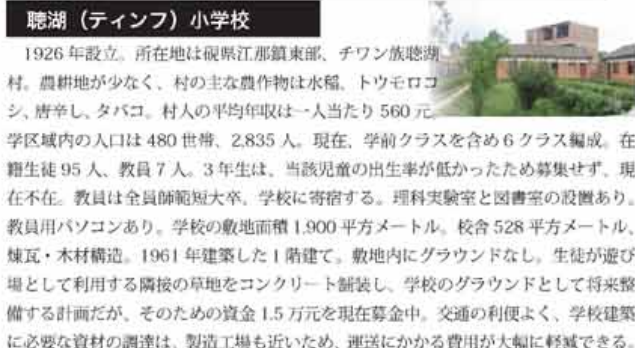


●雲南省文山

**聰湖(ティンフ)小学校**

1926年設立。所在地は砚原江那鎮東部、チワン族聰湖村。農耕地が少なく、村の主な農作物は水稻、トウモロコシ、唐辛子、タバコ。村人の平均年収は一人当たり560元。

学区域内の人口は480世帯、2,835人。現在、学前クラスを含め6クラス編成。在籍生徒95人、教員7人。3年生は、当該児童の出生率が低かったため募集せず、現在不在。教員は全員師範短大卒、学校に寄宿する。理科実験室と図書室の設備あり。教員用パソコンあり。学校の敷地面積1,900平方メートル。校舎528平方メートル、煉瓦・木材構造。1961年建築した1階建て。敷地内にグラウンドなし。生徒が遊び場として利用する隣接の草地をコンクリート舗装し、学校のグラウンドとして将来整備する計画だが、そのための資金1.5万円を現在募集中。交通の利便よく、学校建築に必要な資材の調達は、製造工場も近いので、運送にかかる費用が大幅に軽減できる。



**両勒(リャンラ)小学校**

1931年設立。所在地は聰湖小学校から車で5分。学区内人口は321世帯1,525人。現在6クラス、生徒195人が在籍。教員12名。村の中にあるため敷地が狭く、学校敷地内に生徒たちの遊び場なし。校舎改築について、村としては村から徒歩5分の場所に新しい学校を建てたいと考えている。現在の校舎は煉瓦・木材構造の3階建て、本校舎1棟と教員宿舎3室1棟、実験用教室と遠距離教育用教室から成る。教員2人は地元出身。他は他省他県から招聘され就職。教員の職場として、また居住場所としても環境は劣悪。狭い校庭と破損した校舎は安全な教育活動を育かしている。将来地域の学校として中心的な役割を担う予定で、県政府は力を注いでいる。新校舎建設の用地はすでに確保できている。文山州華僑聯合会はこの学校を最優先に推薦している。

》》(2009年6月1日) ※1人民元=約15円



休み時間(両勒小学校で)

【註】当協会が学校建設を支援するに当たっては、雲南支部のスタッフが現地の教育事情を精密に調査します。その調査報告にもとづき理事会が支援対象となる候補を検討し、現地行政当局とも協議し、受益者である現地住民の意向を尊重しつつ、建設支援校と支援の内容を最終決定します。学校建設にかかる資金は、協会がこれを全額支援するというのではなく、原則、現地行政当局あるいは現地支援団体との折半(協会の負担は1/3~1/2)となっています。この方法には、支援する側に対する支援される側の一方的かつ全面的な依存と、それによってもたらされる精神的な従属を防止し、支援される側に自立するための自動的努力を促す目的があります。同時に、当協会に寄せられる会費、寄付金など貴重な浄財の恩恵をより広くより多くの子ども達に提供しようというのが、当協会の方針でもあります。

# 協会ニュース

## 昆明女子中学校で講演会

### 「夢に向かって」 - 21世紀の中国の女生徒へ

5月14日、当協会が支援する昆明女子中学校(中高一貫校、少数民族の生徒67名が当協会の「25の小さな夢基金」の支援を受けている)で、三木秀隆協会会員のご紹介により、丘ナス教授の講演会が行われ、約160名の生徒が参加した。

1950年代、人種差別や女性差別が「当たり前」だった時代、病院のインターン生として渡米、麻酔学専門医の資格を取得、その後アルバート・アインシュタイン医科大学の教授になった丘ナス教授は、自らの体験談を語り、地道な努力の大切さや苦難の乗り越え方を生徒達に教示された。

「やりたいことを一生の仕事にする苦勞も苦勞に感じません」、「21世紀は女性が大手を振って活躍できる時代、自分次第でどうにでもなります」と女生徒達にエールを送り講演を締めくくると、生徒達からは若さを保つ秘訣や恋愛についての質問が飛び出し、会場は大いに盛りあがった。

## 連合茨城、僑心小学校を視察

### 「先富論」主導の経済発展に 目を奪われて…

6月23日、連合茨城「第12次訪中団」が、当協会支援第10校目の日中高安治僑心小学校(副江郊外)を訪問した。

これまで日系企業訪問、総工会との交流などを企画してきた訪中団は、改革開放による中国のめざましい経済発展にのみ目を奪われていた気がしてならないとの反省から、映画「あの子を探して」(チャン・イーモウ監督)に描かれる中国のもうひとつの現実にも目を向けようと、当協会の紹介で僑心小学校を訪問、子ども達との交流を深めた。

「富める者から先に富め」(先富論)を唱える政策によって発展から取り残された地域の状況、そのなかでけなげに生きている子ども達の姿を見て、万国共通の大人の責務として子ども達が楽しく学べる環境をつくることの大切さを考えさせられたとの感想が、連合茨城事務局の買米祥光氏から寄せられた。



★市町村合併などにより住所表示と郵便番号に変更がある場合、お手数ですが協会事務局宛にその旨ご連絡ください。また、協会から会員の皆様にお届けする郵便など、記載のご住所、お名前に誤りがあればご一報いただけると幸いです。  
★この会報づくり、会員の方々の参加も…と考えています。紙面に限りがありますが、筆まめな方、ご投稿ください。また、会報編集に興味のある方、一緒に会報編集をやってみませんか。InDesignやPhotoshopの使い方が習得できます。

### 後記

匿名でご寄付を振り込んでくださる方、「いつ逝ってしまうか知れないから…」と振替口座を3年分先払いされる会員さん、「親父も高齢なので今期を最後に…」と会費を振り込んでくださる会員のご家族、「この不景気で経営が苦しくて…」と退会を申し出る企業経営者の方、どれもこれも頭が下がります。初心忘れる勿れ！- 自らに言い聞かせるは、NPO活動の原点を反芻する毎日です。ご支援・ご協力に感謝します。

純粋田七  
●健康維持したい方  
●免疫力などを高めたい方  
●朝さわやかに目覚めたい方  
●美容が気になる方  
●体力増強したい方

042-659-2997

**速報** 7月9日夜、雲南省で M6.0 の地震発生!!

震源地は、今年の4月に竣工した第19校目老木廟小学校のある楚雄彝族自治州。幸い、老木廟小学校は楚雄彝族自治州の中でも震源地から離れていたため、小学校や周辺の村に特段大きな被害はありませんでした。ご心配やお見舞いのお電話、ありがとうございました。

## 工学院大学孔子学院で講演会

### 存外知られていない中国内の経済格差

6月5日(金)、「発展から取り残された子ども達—中国雲南省の少数民族からのメッセージ」のタイトルで協理理事長が講演を行った。工学院大学孔子学院と当協会の共催、受講者は46名。中国の都市部と農村部の格差、雲南省の少数民族の現状を説明し、協会の活動を紹介した。講演終了時に行ったアンケートでは「予想を超える現状を知りショックを受けた」、「現地の様子がよく分かった」などの感想が寄せられた。

## 100万回の手洗いプロジェクト

### 準備からいよいよ本格的な実施段階へ

8月、「100万回の手洗いプロジェクト」をスタートさせるため、協会は藤田榮光氏(同プロジェクト計画立案・実行責任者)ほか4名を現地に派遣する。

「子ども達に衛生的で安全な生活環境を！」雲南省の少数民族地域で学校を拠点に健康・環境衛生改善のための現地調査など、教育支援の一環(フォロー・アップ)として協会は昨年同プロジェクトの準備を進めてきた。今年1月国際協力機構(JICA)草の根技術協力事業として採択され、つづいて5月には中国政府(中国中央科学技術庁)の国家プロジェクトとしての承認を得て、同プロジェクトはいよいよ今後2年間にわたる計画実施の段階に移る。同プロジェクトにかかる経費は全額協力機構からの補助金に頼る。

協会の支援校の多くが山間奥地にあり、上下水道等インフラ整備の遅れ、安全な飲料水の確保、人畜の排泄した糞尿の処理、野放図なゴミ捨てなど保健衛生上の課題は深刻で、地元住民や中国政府からも現状を改善したいとの声があがっていた。協会は学校関係者と地域住民の意識を啓発し、当事者が主体的に環境衛生の改善に取り組めるよう、中国の政府機関、現地NGOなどと連携してバックアップする。健康は教育の第1条件だ!



おすずめの一枚

車が行き交う道路脇、背中に大きな籠を振り分けられ電柱につながれた口バが、このハイテク社会にあって、車よりも大きな存在感を見せるのはなぜでしょうか?それこそ生命固有の力(パワー)でしようか。  
(2009.07.02 初鹿野恵蘭 撮影 雲南省臨滄にて)

## イベント情報

- 8月
    - 8月7日(金) 理事長講演
    - ★「発展から取り残された子ども達」於 神奈川県高等学校教育会館(横浜)
    - 主催: 神奈川県高等学校教育会館
    - ※教員夏季研修講座(8/3~7)最終日
    - 8月6日(木) 9日(日) 展示・講演
    - 「小さなカメラマン」写真展 in 羽村
    - ※理事長講演は8日(土)午後7時~9時のみ
    - 於 羽村生涯学習センター(東京都羽村市)
    - 主催: 日本雲南聯誼協会
  - 9月
    - 10月3日(土)~4日(日) 出展
    - ☆グローバル・フェスタ
    - 於 日比谷公園(東京)
    - 主催: グローバル・フェスタ JAPAN 2009 実行委員会
  - 10月
    - 10月24日(土) 交流・募金
    - ☆第5回 チャリティゴルフコンペ
    - 【会場未定】
    - 主催: 東京たまがわロータリークラブ
  - 11月
    - 11月21日(土)~22日(日) 展示
    - ☆八王子いちよう祭り
    - 於 西八王子甲州街道沿い(東京都八王子市)
    - 主催: 八王子いちよう祭り実行委員会
    - 11月以降未定(建設工事の進捗次第)
    - 第21校目昆明老村小学校開校式
    - 於 老村小学校(雲南省昆明)
    - 主催: 日本雲南聯誼協会
- 期日確定(変更あり)  
○→ 未定/期日不確定  
■→ 協会主催/一般参加可  
★→ 一般参加不可  
☆→ オープン/一般参加可

## ご協力ください!

NPO法人 日本雲南聯誼(れんぎ)協会では、中国雲南省の貧困少数民族への小学校建設・フォローアップ支援を柱とした活動を行っております。当協会パンフレットや会報バックナンバーをご希望の方、入会のお申し込みについては協会東京本部までお気軽にお問い合わせください。また、ご寄付の振込先は以下の口座となります。郵便振替口座は、専用振込票をご用意しておりますのでご入用の方は東京本部までご連絡ください。皆様からの温かいご支援・ご協力をお待ちしています。

日本雲南聯誼協会(ニホンウナンレンギキョウカイ) 宛  
 ■三菱東京UFJ銀行 目黒駅前支店 普通 1300380  
 ■郵便振込口座番号 00100-8-610935